

教科名	保健体育	単位数	1 単位	担当者	源田裕久・竹内雄史・井上 篤
科目名	保 健	年次	1 年次		
使用教科書 副教材等	「現代高等保健体育」 大修館書店 「現代高等保健体育ノート」 大修館書店				
1 学習の到達目標（育成すべき資質・能力）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けることができる。</li> <li>・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。</li> <li>・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができる。</li> </ul>					
2 学習の評価（評価基準と評価方法）					
観点	a. 知識及び技能	b. 思考力,判断力,表現力等	c. 主体的に学習に取り組む態度		
観 点 の 趣 旨	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。		
主 た る 評 価 方 法	行動の観察 定期考査 ワークシート	行動の観察 定期考査 ワークシート リフレクションシート 生徒の相互評価	行動の観察 ワークシート 生徒の自己評価		
評 価 全 体 に 占 め る 割 合	40%	30%	30%		
3 学習の目標と振り返り					
	《目 標》 ～何ができるようになりたいか具体的に～		《振り返り》 ～学習の振り返りと今後の課題～		
前 期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】		
後 期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】		

4 学習の内容						
学期	学習内容 (単元)	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
		a	b	c		
前期 ・ 後期	1 単元 現代社会と健康					行動の観察 定期考査 ワークシート リフレクションシート 生徒の自己評価 生徒の相互評価
	01健康の考え方と成り立ち	◎	○	○	・わが国の現在の健康水準や健康問題の変化、および今日の健康課題について理解する。(a, b, c)	
	02私たちの健康のすがた ※さまざまな健康の考え方について理解できる。	◎	○	○	・生活習慣病の種類とその要因について理解するとともに、予防、早期発見、個人や社会の対策の必要性について理解する。(a, b, c)	
	03生活習慣病の予防と回復					
	04がんの原因と予防					
	05がんの治療と回復 ※生活習慣病やがんの種類と要因について理解できる。	○	◎	○	・運動、食事、休養・睡眠といった生活習慣が、生活習慣病の予防をはじめ、健康の保持増進に大きく関連していることを理解する。(a, b, c)	
	06運動と健康					
	07食事と健康					
	08休養・睡眠と健康 ※健康と運動・食事・休養睡眠の関係について理解できる。	○	◎	○	・喫煙、飲酒、薬物乱用が心身にもたらす健康問題と社会問題について理解する。(a, b, c)	
	09喫煙と健康					
	10飲酒と健康					
	11薬物乱用と健康 ※喫煙、飲酒、薬物乱用が健康や社会に及ぼす影響について理解できる。	◎	○	○	・おもな精神疾患と要因、予防と治療、また精神保健の今日的課題や精神疾患の適切なケアのための社会環境について理解する。(a, b, c)	
	12精神疾患の特徴					
	13精神疾患の予防					
	14精神疾患からの回復 ※精神疾患の予防と回復について理解できる。	◎	○	○	・感染症及び性感染症、エイズの原因や予防、対策について理解する。(a, b, c)	
	15現代の感染症					
	16感染症の予防					
	17性感染症・エイズとその予防 ※感染症の予防と対策について理解できる。	○	◎	○	・健康づくりには、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりが重要であることを理解する。 ・わが国の事故の実態と事故発生に関連する要因と安全な社会を形成するための個人や社会の対策について理解する。(a, b, c)	
	18健康に関する意思決定・行動選択					
	19健康に関する環境づくり ※健康を保持・増進するために自らの健康を適切に管理することを理解できる。	○	◎	○	・けがや急病に対する応急手当の意義や方法を理解する。 ・日常的なけがや熱中症の手当や方法を身につける。 ・心肺蘇生法の意義と方法を理解する。(a, b, c)	
2 単元 安全な社会生活						
01事故の現状と発生要因	○	◎	○	・交通事故の防止の観点から、運転者の責任、個人や社会の対策等について理解する。(a, b, c)		
02安全な社会の形成						
03交通における安全 ※安全な社会づくりについての取り組みについて理解できる。	◎	○	○			
04応急手当の意義とその基本						
05日常的な応急手当						
06心肺蘇生法 ※日常的なけがや熱中症の手当や、心肺蘇生法の手順や方法について理解できる。						

